

クラス番号	901	担当教員名	浅原 千里
テーマ	人の支援でなぜコミュニケーションが必要なのか？ —知的障害のある人の支援を通して考える		

ゼミナール概要

目的、内容、方法等：

私たちは福祉実践について学ぶ中で、人を支援するには当事者と向き合っコミュニケーションをとることが必要、ということ必ずどこかで読んだり聞いたりします。このことについて疑問を持ったり否定する人はたぶんいないでしょう。浅原ゼミでは、この“当たり前”のことを「なぜ必要なのか」と問い直してすることで、当事者との向き合い方や支援における利用者（当事者）理解のしかたを深く考え、実践に結びつけることができるようにします。

支援の対象となる当事者にはいろいろな方がいますが、浅原ゼミでは、重い知的障害のある人の支援に焦点を当てます。コミュニケーションをとりにくいとされる人たちと「なぜコミュニケーションをとる必要があるのか」「どのようにコミュニケーションをとるのか」について、文献を読み、あわせてゼミ生ひとりひとりが知的障害のある人と関わる体験をもつことで、頭と身体を使って考え、ゼミ生同士で意見交換しながら学んでいきます。

私たちは、会話やメールなど日頃のコミュニケーションを言葉に頼って生活しているので、言葉に頼れない当事者と関わる時、戸惑いや不安を感じることがあります。このような自分自身の感情を見つめ、言葉だけに依らないコミュニケーションを体験することは、福祉実践におけるコミュニケーションの意義、目的、方法をとらえなおす原点となるでしょう。また、このゼミで学ぶ利用者（当事者）理解の視点は、高齢者、子ども、知的障害のほかの障害のある人たちの支援にもつながる普遍性があると考えます。

授業計画：

前期 … 小グループに分かれ、教員の指定する文献を読み込みます。毎回、教員が指定する範囲について担当グループが報告するとともに、いくつかの論点を出してディスカッションを行います。前期中の学びをふまえ、中間レポートを作成します。

【前期テキスト】グンネル・ヴィンランド、スザンヌ・ローセンストレーム＝ベンハーゲン
『見て！聞いて！分かって！知的障害のある人の理解と支援とは—スウェーデン
発 人間理解の全体的視点』岩崎隆彦、二文字理明訳 明石書店 2009年
4,000円＋税

夏期休業中…ボランティアとして知的障害のある人と関わったときのやりとりを振り返り、プロセスレコードを作成します。ゼミ合宿（1泊2日）で各自のプロセスレコードを持ち寄り、検討します。

後期 … 小グループに分かれ、教員の指定する文献とグループで選定した文献を読み込みます。毎回、担当グループが報告するとともに、いくつかの論点を出してディスカッションを行います。前期と関わり体験の学び、および後期の文献学習と個人が検索した文献学習をふまえ、1年間の研究を総括するレポートを作成します。

【後期テキスト】寺本 晃久、末永 弘、岩橋 誠治、岡部 耕典『良い支援?—知的障害/自閉の人たちの自立生活と支援』生活書院 2008年 2,415円（税込）

担当教員からのメッセージ

私は、知的障害のある自閉症の人を支援する仕事をしてきた経験から、コミュニケーションは基本的に「五感（六感）を総動員して身体を張ってするもの」と認識しています。文献を読んで先達の知識、考察の視点、ヒントを得ながら、自ら当事者と関わる実践を行ない、その実践体験をふりかえりながら、さらに文献を読み考察を深め次の実践に反映させる、というように机上と現場を行き来するのが福祉実践の研究です。浅原ゼミでは、各自が年度初めに福祉施設にボランティアなどを申し込み、継続して知的障害のある方と関わりをもてることを要件とします（または夏期休業中に少なくとも2週間以上、集中的にボランティアを行ってください）。すでに1年次からボランティア・サークルなどで知的障害のある方と継続的な関わりをもっている人は、それを続けながらゼミ学習に臨んでください。